

令和4年度第4回狛江市市民活動支援センター運営委員会 議事録

- 1 日時 令和5年2月16日(木) 18:30~20:00
- 2 場所 市民活動支援センターこまえくぼ1234
- 3 出席者
委員 青木香奈 伊藤聡子 伊東達夫 伊藤輝芳 上田英司 梶川朋 佐藤新哉 中央裕子
長尾真木 星恵子 松村正俊
事務局 大山寛人 日比野浩 武藤慎哉
- 4 委任状 門脇由美子
- 5 傍聴者 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため傍聴は中止
- 6 議題

(1) 報告事項

市民活動支援センターからの報告

①委員の交代

民生児童委員の役員交代に伴い、三角委員から門脇委員に交代となった。

②専門部会活動の報告(広報部会・ホームページ部会・体験学習部会)

資料に基づき事務局より説明

- ・ホームページ部会 12月、2023年1月投稿相談会を実施
- ・体験学習部会 会議を7回実施(来年度の検討、プログラム
LGBTQをテーマにしてワークショップの依頼あり。検討
- ・広報部会 広報紙の発行について
わっこ「こまえがおミニ」掲載終了の経過と説明を行う。

(委員)

「わっこ」掲載での課題はどんなことなのか。

(事務局)

「こまえがおミニ」は市民目線で市民活動について取材した情報を市民が文章にして発信することを基本として記事を作成してきたが、「わっこ」での編集過程で表現の仕方などの紙面全体とのバランス調整も難しかった。

(委員)

「こまえがおミニ」の紙面は市民が作る記事として自由に記事が書けると思っていたが、やっていく中で「わっこ」の編集に合わせる部分が多かったということか。

(委員長)

広報紙を統合する時、運営委員会でもかなり議論をした。一つの事例として蓄積し、今後参考にできるように記録を残しておくことが大切である。

②検討チーム報告

各検討チームから状況について報告とそれぞれの報告に対して質疑を行った。

○きっかけ講座検討チーム

昨年 11 月に「こまえサミット」を開催して以来、開催していない。3 月ごろから粕江サミットの振り返りと、来年度について話が出来ればと考えている。

○社会資源検討チーム

社会資源マップをホームページに載せているが、もう少しわかりやすくしたいと議論している。今までは町名ごとに公共、民間施設が載っているが、駐車場の有無などの項目を作って○×で分かりやすく変更しようと考えているので、委員の皆さんにもご意見をお聞きしたい。

(委員)

検討チームとしては、見やすさやこういう項目があると便利などについてご意見をいただきたい。また民間の施設で市民活動団体に場所を提供してくれるところなどありましたら教えてほしい。

(委員)

何か市民活動をしたい時に場所を探すときなどに使っていただきたい。将来はホームページ上で検索が出来れば良いと考えている。

(委員)

キーワードはあまり細かくすると検索できない。

(委員)

音楽で使える施設でもロックはだめなど細かいルールを言うともっとキーワードが細くなる。

(委員)

使えると聞いていて、急に使えないとなると困る。

(委員)

社会資源マップの使い方として、おおまかな○×△を示しています。基本的には各施設に問い合わせをしてもらう。このマップは一時的な資料と考えている。

(委員)

民間施設についてはアンケート用紙をお送りして設備の使用が可能か確認をする。

(委員)

最初の一覧作成の時に、見えない人がホームページに接したとき○×だと分かりにくいため、文章で「あり」「なし」と書くようにした。文章は残して欲しい。見える人にはわかりにくくとも、見えない人には文章のほうがわかりやすい。バリアフリーの設備については、ココシルコマエのアプリにバリアフリーマップがあるので、連携が出来たら良い。

(委員)

項目に 1 階、2 階などの階数があると良い。階上であるならばエレベーターがあるのか。車いす

やベビーカーの方が使うことを考えると必須だと思う。

(委員長)

情報の精査は検討されていると思う。視覚障がいの方がサイトを見る場合、読み上げ用のページと表のあるページの2つがあるとよいのか。

(委員)

文章とマークがあれば、視覚障がいの方は文章で判断すると思う。

(委員)

Wi-Fiマークなら「ワイファイ」、車いすトイレなら「クルマイスヨウトイレ」と文字をテキストで埋め込めれば良いと思う。

(委員)

社会資源マップの一つは標準で作り、もう一つは視覚障害のツールを使う人にあった表現に変換することが必要と思う。

(委員長)

このほかの、何か気になることがあれば検討チームのメンバーに聞いてほしい。

○調査研究検討チームの説明。

調査結果の概要版を作成し、5項目についてまとめた。その結果を基に政策室と意見交換を行った。

(委員)

調査研究でデータが出てきた。ヒト・モノ・カネについていかに連携するのかということだと思うが、それがデータによって単なる縦横の関係ではなく、3次元、4次元の関係で、いかに組み合わせるかということが難しいと感じた。その中でこまえくぼの役割、行政の役割、それぞれいかに役割分担をしていくことが新しい道を作ることになるのではないか。

(委員長)

政策室との調査結果に関する意見交換もかなり興味深いいろいろな意見交換が出来たので、調査概要と併せて次回の運営委員会で報告の時間を取りたい。

(2) 協議事項

①令和4年度事業報告について

②令和5年度事業計画について

資料に基づき、事務局より説明

(委員長)

意見があれば出していただきたい。

(委員)

団体の後継者問題についてボランティアをやっていない人の中にはボランティアどころではない人もたくさんいる。お金がもらえないのなら活動が出来ないという人もいる。いろいろな見方が必要だと思う。

（事務局）

こまえくぼとしての取り組みとして、後継者に新しい人材をと考えてきたが、活動を長く続けている団体になかなか入りづらいことがある。類似する活動があっても、新規に団体を立ち上げていくことも方針として考えている。

（委員）

若い人や学生、新社会人は単発や自分の興味があるテーマをネットで検索することも出来るので、自分のテーマに基づいて活動をチョイスする形態がすごく増えてきている。活動を長く続けている団体に新たに所属して活動する方法や、若い方たちがグループで新しく活動を始めることもあるし、既存の活動に体験的に参加するなど、柔軟に作戦を練っていくことが必要になってくる。

（委員）

ボランティアをするには仕事をしているのか、子育てしているのかなど、本人の立場がかなり重要だと思う。昼間、私が何かボランティア活動に携われるのか。現状はむずかしいと考えると体験や見学する機会がないと参加は難しいのではと思う。

（委員）

体験プログラムの話ですが、「団体をどう伸ばすのか」「団体をどう作るのか」などの団体寄りの話が多いと感じる。もう少し個人にも目を向けて欲しい。ボランティア体験やボランティアの雰囲気を知る場として、イベントなど入りやすい活動を紹介してあげるなど、ボランティアを募集する団体を支える意味でも行ってほしい。また、イベントを行う団体はボランティアをしたい人にアクセスする方法がない。SNSで募集していても、そこに応募してくる人はほぼいない。そういう時に、市民活動支援センターという安心感のあるところが紹介やタイミングを計ってくれると、団体の輪にも入りやすい。こまえくぼで個人ボランティアの情報を把握してくれると良いと思う。

（事務局）

こまえくぼに個人ボランティアの登録制度があるので、どう活用するかもう少し内部でも検討したい。

（委員長）

7月に中学生、高校生対象のセルフプロデュースのプログラムを計画ということだが、その中で自分の内面に関することだけでなく、表現する場として粕江でのイベントのボランティア活動や夏体験ボランティアなどと連携して行えると、戦略として良いと思う。

（委員）

「イベントのために人が足りないのでボランティアを募集している」という情報が入ってこない。こまえくぼのホームページでボランティア募集の記事を見るが、1回だけではなく、ずっと参加しなければならないものが多い。1日だけでも参加ができるボランティアがあれば若い人でも参加しやすいと思う。

（委員）

そのような情報をツイッターやLINEで流してもらうと、中高生や大学生はホームページよりも気軽に見られるので、きっかけになりやすい。中高生がスマホを持ち始めると、何を登録するのか親は気になる。そこで役に立つ情報が入ってくるとうれしく感じるし、それがこまえくぼの役割になっていくと思う。

(委員長)

こまえくぼも LINE に取り組んでいく計画があると聞いている。

(事務局)

粕江市は LINE を積極的に取り組んでいる。地方公共団体には I アカウントを無料で行えるプランがあるが、こまえくぼの場合は有料プランになる。有料プランではメッセージの送信限度があるが、有効に使っていきたい。

以上で、本日の会議は終了

次回 4 月 13 日 (木) 18 時 30 分から